



# 10周年に 寄せて...

2001年3月

## はじめに

「おひさまっ子の会水泳部」が出来て、まる10年が過ぎました。その間、私たちを支えてくださった多くの方々に、今、改めてお礼を申し上げます。動けない子ども達をどうやったら水の中に入れることが出来るか、そして楽しむことが出来るか。手さぐりの中、少しずつ、無理をせずに歩んできた10年だったと思います。

ここに10年の節目として、今までの道のりをふりかえり、私たちの子どもと共に歩んできた親達、そして支えてくださった方々へ、感謝の気持ちを表わすと同時に、また新たな再スタートを切るために、10周年記念誌を発行することにしました。

それぞれの思いが込められたホットな文集になったと思います。10年は節目ではありますが、通過点でもあります。これからも、少しずつ前に向かって進んでいきたいと思えます。

## 「おひさまっ子の会水泳部」 活動の足跡

### 1. 10年間の歩み

#### \* 発足

私たちの子どもが、まだ幼かった、1989年頃、現会員の一人が『スキンシップ水泳療育』という本を見つけました。それはいわゆる専門的な本ではなく、障害のある子どもたちを水泳で楽しく遊ばせながら、機能を回復させようという本でした。そこで、著者である池田君子先生に思い切って手紙を出すと、直々にお電話を頂き、横浜の地で水泳指導が受けられないかをご相談しました。

そして、何回かのやりとりの後、グループで集まれば取手から横浜まで通って下さる、というお返事をいただきました。ちょうどリハセンターの第2通園（肢体不自由児）に通う子どもの親たちで、親の会が結成されようとしていたので、その活動の一環として、水泳教室を実施しようということになり、1990年4月、池田先生に、まずは通園の保護者教室へ講義に来ていただいたのが始まりでした。

#### \* プール探し

その後、リハセンターの水治療室で初体験、いよいよ6月からは北部プール（現都筑プール）に舞台を移し、水泳教室がスタートしました。

しかし、北部プール側も、大勢のハンディキャップのある子どもたちの入場で、少なからず混乱があり、寝かせられない更衣室や水温の低さ、また、おむつ使用者お断りの規則、公共のプールなので占有できないこと、などなど、いろいろな問題と向き合うことになりました。

その頃は、まだ「横浜ラポール」はできていませんでした。より良いプールを求め、次なるは、民間の「綱島ウォーターメイツ」というスイミングクラブのプールでした。駐車場がある上にコース貸しが可能で、同年9月から利用しました。

しかし、ここも、あくまでクラブ会員優先の施設であり、希望の時間が取れなかったり、時間も短かったり、やはり水温も低かったので、頭を痛めていました。

#### \* 「こどもの杜」との出会い

翌10月末ごろ、子どもの遊ぶ施設である「こどもの杜」（青葉区）にプールがあることが分かり、ダメもとで電話をしてみると、意外にも使用できそうな前向きなお返事。さっそく当時の役員のお母さん3人が直接出向き、職員のMさんと、運命の(?) 出会いを果たしたわけです。Mさんは、私たちの子どもに、深く理解を

示して下さい、親としてどれほどありがたく感じられたことでしょうか。

「こどもの杜」では、水温も高めに設定してもらうことができました。そして温かいお風呂と、なにより寝かせられる更衣室があり、プールのあとの休憩とミーティングに、ホールも使用させていただくことができました。私たちの子どもには、ピッタリの施設でした。

さっそく11月より、貸し切りで利用させていただくことになり、今日まで、まる10年という月日をお世話になっています。

#### \* 「横浜ラポール」がオープン

1992年待望の、障害者のスポーツ施設「横浜ラポール」が完成しました。さっそく9月から利用しました。しかし、水温が期待していたほどではなく、私たちの子どものように、思うように体が動かさずにじっとしていることの多い子は、体が冷えてしまいます。唇を青くして震えてくる子も多く、おのずと冬場の「ラポール」での活動はムリと判断、主に夏場に利用することになりました。「ラポール」では、水温の問題はありましたが、「こどもの杜」に比べて水深があるので、大人の介助が楽に行なえるという利点はありました。

また、体温を維持できるように子供用のスイムスーツを特注品で作製してくれるところを見つけたりして体温が維持できるように工夫しました。

#### \* ボランティアさん

活動が定着し始めると、私たちは、親だけでは大変になってくることに気付きました。子どもは元気でも、親が体調を崩してプールに入れないこともあり、また移動や着替えの手間など助けてくれる人を探すことにしました。“ボランティアさん募集”の呼びかけに、様々な方が来て下さるようになり、今日まで、プールの内と外で、私たちを支えてくれています。特に、Tさん、T.Mさん、Oさん、Mさんの4人の方々には、プールの中でも熱心にご指導いただいています。感謝の気持ちでいっぱいです。（原文は実名ですがプライバシー保護のやめイニシャルに変更しています。）

## 2. 指導者養成講座の実践

子どもの成長に合わせて、親やボランティアさん方も、いつまでも池田先生の指示待ちばかりではなく、自分たちの技術も磨いていこうということになり、199

2年、池田先生に「スキンシップ水泳療育の指導者養成講座」を2日間にわたって開いていただくことになりました。役員さんは、「ラポール」と何度も交渉を重ね、受講者だけでプールに入ること、2日間の会議室やプールの部分利用などを認めていただきました。その他にも、受講者の募集や当日の運営など、実にパワフルな活動を展開しました。

この「指導者養成講座」は、翌93年、94年、と続き、95年、96年には、池田先生が指導されている他のクラブとの共催で行ないました。

### 3. バザー

会の運営費の捻出は大きな問題です。補助金などの申し込みは行なっていますが、やはり自分たちでも費用を捻出する必要があります。また、地域の方々に私たちの活動や名前を覚えていただくことも重要です。そこで、1993年2月、大倉山の“梅祭りバザー”に、初めて参加することになりました。バザーの献品集め、当日のおにぎり作りなど、役員さんを中心に準備を進めました。

この“梅祭りバザー”は、以後5年間参加しましたが、もう少し暖かい時季にしようということになり、1997年からは、「横浜ラポール」主催の“ラポールの祭典”のバザーに参加しています(99年のみ、申し込みが間に合わず、鴨居の生協祭りのバザーに参加)。ラポールでのバザーは、天候や駐車場で困ることもなく、また車椅子の子どもたちにとっても参加しやすく、家族で楽しむことができます。

### 4. 夏合宿

創立3年目の1992年、活動も軌道に乗ってくると、「合宿をした方がいいのでは」との声が上がり、まずは、新治養護学校のプレイホールでの池田先生による親子体操やレクチャー、夜は十日市場の活動ホームに移動し、宿泊、懇親を深めました。親同士が日ごろ、なかなか顔を合わせてじっくり話しをする機会がないので、こういう合宿は貴重な経験でした。それ以降、定期的な合宿へと発展していきました。

翌年は、やはり子ども達にも海の体験をさせたいということから、三浦郡葉山町の相洋閣にて、一泊の合宿を行ないました。海水浴場が目と鼻の先にあり、その後、1998年まで、毎年、相洋閣にて夏合宿を行なってきました。

途中、宿が取れずに、あゆみ荘で行ったこともありますが、1999年は、初めて、「三浦マホロバマインズ」で行ないました。2000年は、合宿を10周年記念行事に

切り替え、有志の方達で、伊東で行なわれた「わんぱくスイミング」に参加しました。

どこに出かけていく場合でも、子ども達は日々成長し、年々体も重くなっていくので、介助の負担が大きくなってきました。若い学生さんたちに声をかけて、手伝ってもらおうようになりました。同時に、いろいろな人たちに、こういう子ども達をわかってもらおう、いい機会にもなっていると思います。ただ、どこの宿も、障害者用にはなっていないため、子ども達を移動させるのが、だんだん大変になってきています。海に入れる、どこかいい施設はないのでしょうか。

## 5 . 勉強会

1994 年頃より、池田先生の個別指導の様子をビデオカメラに撮り、あとでそのビデオを見ながら勉強する機会を設けるようにしました。自分の子はもちろん、ほかの子ども達の様子を見ることも参考になるものです。勉強会は年に一度くらいですが、普段のミーティングではなかなか話せないことも、ゆっくり時間をとることが出来るので、有意義な機会といえます。

## 6 . 池田先生からの独立

もともと、池田先生から10年間は指導してあげるなのでその間に指導できる人を養成するように、との約束がありました。そこで、10 年目以降徐々に指導いただく回数を減らし、現在(2012年7月)では指導者1名、ボランティア4名、そのほか親が介助に入ることで水泳療育を行っています。

以上